

# ふるさとの 植物を守ろう

No. 15 December 2014

植物園と市民で進める  
植物多様性保全ニュース

Japan Association of Botanical Gardens

公益社団法人日本植物園協会

## 有用植物を保全する 日本版ナショナルコレクション構想

新潟県立植物園 倉重 祐二

植物園が植物多様性の保全を行うこと背景には、日本に自生する約7,000種類の維管束植物のうち、1,779もの植物が絶滅の危機に瀕している(2012 環境省)という事実があります。

植物園は生息域外保全を行う最重要拠点という自身の認識や環境省の位置づけから、日本植物園協会では2006年に各地域の植物園が保全の拠点となって市民団体、行政や研究機関等と連携して効率的に生息域外保全を進める植物多様性保全拠点園ネットワークを組織し、現在は「植物多様性保全2020年目標」の元、「わが国のすべての野生植物種の生息域外保全と、有用植物資源の系統保存の中核として貢献する」ことをミッションに、2020年までに日本産絶滅危惧植物種の75%(1,335種)の生息域外保全を達成すべく活動を進めています。

2013年5月の植物園協会の総会では植物多様性保全委員会から、加盟園で1,115種の絶滅危惧植物を保有していることが報告され、順調に生息域外保全活動が進んでいることが報告されました。

### ナショナルコレクション構想

このように8年を要して、やっと野生植物の生息域外保全事業が諸についた感がありますが、2020年目標であげられている有用植物の系統保存については、環境省の状況調査が行われている絶滅危惧植物以上に困難が予想されます。植物園協会ではこの「有用植物」を定義していませんが、協会内では園芸植物と薬用植物が大きな比重を占めることが予想されます。

ここで参考になるのが、イギリスで行われているナショナルコレクション(National Plant Collection)です。これはイギリスで栽培される野生種や園芸植物を保存、育成、増殖、記録する組織で、National Council for the Conservation of Plants and Gardens(NCCPG)という民間団体によって運営されています(<http://www.nccpg.com/Conservation-resources/NCH-Handbook-2008.aspx>)。このイギリスのナショナルコレクションを参考にし、絶滅危惧植物を保全してきた実績を活かして有用植物の保全を行おうというのが、植物園協会の日本版ナショナル

コレクション構想です。多くの植物園が保有する園芸植物などの価値が明らかになることで、保全の意義が高まり、一般の方にアピールすることにつながると思います。

### 日本版ナショナルコレクション

イギリスのナショナルコレクションを参考としても、日本に適した制度に改める必要があります。そこで昨年度から植物多様性保全委員会内にナショナルコレクションの構築に関する分科会を設置し、外部有識者を含めて検討を行っています。ここでは、観賞用園芸植物と薬用植物の保全を中心として、これまでの検討会での議論や私見も含めて、現状や事業の概要についてまとめました。

### 現状の認識

- 1) 長い歴史を誇る日本独自の園芸植物でも野生植物と同等か、さらに危機的な状況にあると想像される
- 2) これまでにどのような栽培品種が存在し、なにが現存しているのか、ほとんどの分類群で把握できていない
- 3) 伝統園芸植物等は、栽培が難しい種類が多く、保存基盤が個人や愛好会などに限定されていることも多い
- 4) 薬用植物は観賞園芸植物や栽培品種とは区別して扱う必要がある
- 5) 文献や栽培情報等の収集も必要
- 6) 早急な対処が必要なコレクションが存在する

### 事業の概要

- 1) コレクション保有状況調査
- 2) 分類群及び栽培品種の保全プライオリティーの決定
- 3) ナショナルコレクションとしての認定
- 4) 情報収集とデータベースの構築、情報の公開
- 5) 危機に瀕したコレクションの橋渡し
- 6) 以上を実施するにあたっての行政、研究機関、愛好家団体や個人コレクターとの連携
- 7) 絶滅危惧植物の保全事業との統合

### 短期的な取り組み

- 1) メーリングリストを作成して、情報を交換、共有するグループをつくる
- 2) 協会内、協力団体でナショナルコレクションの認定をはじめ



抵抗性に突然変異を起こしたイネを用いた研究成果についてお話し頂きました。つぎに第2部として「大阪市大植物園の研究材料の紹介」と題し、植松千代美氏による「花卉が斑入りになる植物」と、筆者による「奇妙な水生被子植物カワゴケソウ科」という講演が行われました。本研究会を通して、植物と様々に関係する菌類や植物の多様性について新たな視点で考える良いきっかけとなりました。



## ネットワークの構築（旭川市北邦野草園）

旭川市北邦野草園 堀江 健二

本園では市民、来園者とのネットワーク構築の一助として印刷物を発刊しております。

ハンドブック「旭川の植物」（2011年発刊）は、旭川市で見られる代表的な季節毎の植物200分類群を、携帯に便利な図鑑として作成しました。観察会でも有効活用しております。

「旭川市蛇紋岩地帯の植物の調査研究」（2012年発刊）は、国際花と緑の博覧会記念協会の助成を受けて行った事業の報告書です。旭川市の蛇紋岩地に分布生育する蛇紋岩植物、低山地の蛇紋岩地に生育する高山性植物、蛇紋岩地に特異的な分布をする植物を対象に調査研究し、解明したものです。

「旭川市北邦野草園研究報告書」（2013年より発刊）は、旭川市を中心にした植物や自然史的な内容を掲載した野草園の紀要です。地域の植物相、植生をはじめ昆虫、エ

ゾサンショウウオ等の報文が発表されております。

「旭川市維管束植物～標本を基にした目録～」(2014年発刊)は、証拠標本に基づき旭川市に自生している維管束植物125科448属1,002分類群を、分子系統分類体系（APG III分類体系）に準拠して収録しました。

おかげさまでいずれの印刷物も好評で、専門家からも高い評価を受けております。



## コラム

### 「いい植物園」と「そうでない植物園」、それとも「入園者の多い植物園」か

日本植物園協会名誉会員 坂崎 信之

この表題は、チョット刺激的かもしれないが、2014年9月26日毎日新聞のオピニオン欄に掲載された若い方（22歳）の投稿〈展示生かし「いい博物館」を〉の表現を一部使わせてもらったのである。

この投稿は、“博物館には「いい博物館」と「そうでない博物館」があるように思う。「いい博物館」では学びが大きい。展示資料がさまざまなツールを通して理解できる。一方「そうでない博物館」は資料を見ただけで終わってしまう。いい資料が展示してあっても、解説が不足していたり、また、基礎的な知識がなければ理解しにくい表現で書かれていたりする。博物館は社会教育施設であり、学びを提供する場である。来館者が学びを深められる工夫が必要と考える”という主旨である。新聞の一読をお勧めしたい。

失礼ながら実は、今時こんな考えを持っている若い方がいるとは思っていなかった。燭光を見いだした。ここでは「博物館」を「植物園」に置き換えて考えてみよう。

当然のことに植物園に身を置く人は「いい植物園」を目

指すべきだろう。ところが、今や「いい植物園」どころか「そうでない植物園」以前に問題があるのが現実ではなからうか。

人件費も含めて全てを入園料などで賄わねばならない私立植物園は厳しい。実際のところ「いい植物園」とは、一朝一夕にはできない日常の努力の賜である。とはいえ、儲からなくても「何とかやっつけていける植物園」でなければ理想が高くとも経営は長続きしない。

公立の植物園でも事情はあまり変わらない。「いい植物園」である前に「入園者の多い植物園」を要求される。従って、植物園は珍奇な植物で目を惹き、花でも綺麗に沢山植えておけばそれでお客が楽しみ満足する。入園者が増えれば評価される。即ち「入園者の多い植物園」→「市民から愛される植物園」→「予算を付ける価値のある植物園」という構図になる。

今の経済社会を見ると「いい商品」が「売れる商品」ではない。「売れる商品」が「いい商品」なのである。だから「入園者の多い植物園」が「いい植物園」ということだ。

